

会 議 録

- 1 会議の名称 川根本町総合計画検証委員会（第1回）
- 2 会議日時 令和5年12月8日（金） 午後7時00分 から
午後8時20分 まで
- 3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階会議室
- 4 出席した者の氏名
 - （1）委 員 小泉祐一郎 委員長、宮島明利 委員、土屋和明 委員、
平口慶喜 委員、駒井宗子 委員、山田典秀 委員、澤本等委員、
坂本政己 委員
 - （2）執行機関 事務局 経営戦略課長 大村妃佐良
経営戦略課まちづくり推進室長 大村一成
経営戦略課まちづくり推進室主幹 櫻井久美
 - （3）その他 傍聴人 なし
- 5 議題
 - （1）総合計画・総合戦略の検証について
 - （2）その他
- 6 会議資料の名称
資料1 総合計画の状況一覧表
資料2 総合戦略の状況一覧表
- 7 発言の内容 次ページ以降

事務局	<p>（1 開会）</p> <p>ただいまから第1回総合計画検証委員会を開催いたします。経営戦略課長の 大村です。よろしくお願ひします。皆様方におかれましては、お忙しい中ご出 席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>第2次総合計画は平成29年度からの令和8年度までの10年計画となっております。 町には各分野において様々な計画が策定されておりますが、その各計画 の基本となっているものが総合計画です。</p> <p>また、昨年度には委員の皆様のご協力をいただき、令和4年度から令和8年度 までの後期計画を策定しています。</p>
-----	---

	<p>現在、各計画策定については目標の数値化が求められており、町民の方が参画した組織による検証を位置付けしているため、皆様に総合計画、総合戦略の検証をお願いするものです。</p> <p>本委員会の任期は2年となっており、令和5年3月に任期満了となりましたので、事務局より委員の皆様のご紹介をさせていただきます。</p> <p>任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間です。</p> <p>○名簿順に紹介</p> <p>なお、本日は川根本町商工会 西澤委員、株式会社富田工務店 富田委員、川根本町農業経営振興会 藤中委員が所用により欠席となっております。</p>
事務局	<p>(2 委員長選出について)</p> <p>次に、本委員会の運営、進行をお願いする委員長を選出していただきたいと 思います。要綱第5条にあるとおり、委員の互選により定めることとなっておりますが、何かご提案がありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>引き続き小泉委員をお願いしてはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>委員から小泉委員に引き続きお願いしたいと申し出がありました。いかがでしょうか。</p> <p>(委員から「賛同の拍手」)</p>
事務局	<p>それでは、委員の皆様のご賛同をいただきましたので小泉教授に委員長をお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>(3 委員長あいさつ)</p> <p>引き続き、よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、議事の進行について、設置要綱第6条に基づき、小泉委員長よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>議事に入る前に、要綱第5条第3項にあります委員長の職務代理について、委員長が指名するとなっておりますが、計画策定から参画いただいております、町の施策に見識のある山田典秀委員をお願いしたいと思います。</p> <p>議題(1) 総合計画前期基本計画・総合戦略の検証について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1 総合計画・総合戦略について)</p> <p>総合計画(後期計画) 1～6について説明。(別添資料のとおり)</p> <p>総合戦略の基本目標 1～5について説明。(別添資料のとおり)</p>

委員長	それでは総合計画・総合戦略について委員の皆様にご意見をいただきたい。
委員	総合計画の2ページにある、ウの要介護認定者の割合判定がA判定となることに疑問がある。
事務局	介護保険の65歳以上の1号被保険者の人数に対して、要介護、要支援の認定者数で割りだされるもの。割合が目標値よりも低くなりA判定となり判りにくいため見直す。
委員	<p>社会移動に関し、転出の超過を食いとめていかなければならないというのは、すごく理解できる。そこに、さらにこの大井川鐵道が動いていないということが実は大きく影響しているのではないか。</p> <p>川根高校に進みたい生徒さんが多ければ良いが、島田方面を希望する子どもを持つ親は、これから先の通学手段を気にして、逆に親御さんが疲弊してしまう。子どもの通学のために親が疲弊してしまうということで転出せざるを得ないということになりかねない。観光も含めて、大井川鐵道との関わりを考えていく必要がある。</p>
委員	この社会移動について、解釈の違いだと思うが、これは残るべき人が今川根に残っている結果だと思う。出るべき人はもう既に出て、残るべき人が残っているため人数がどんどん減っている。毎年、若い人が転出し高齢者が残るという動きがある。実際この数字の動きはそういうことかなと解釈している。
委員	<p>現在、子育て支援施設では利用する親御さんの子育ての悩みを聞いたり、様々な試みを実施している。</p> <p>ただし、仕事を持っているお母さんは、育児休暇明けは子育て支援施設を利用せず保育園に入園するため、支援施設の利用者数は減少している。子育てのためには子育て支援施設も大切ですが、保育園の環境も大切にして、学校に上がっていくという連携もすごい大切だと感じている。</p>
委員	全体的な判定について、前年度よりも数が減り、数字が悪いにもかかわらず、達成率の割合だけで判定していいのか疑問に思う。
事務局	当然ながらこういうABC判定を出すことが全てではない。今後については少し分析を加えた中で、分かりやすい方法を検討したい。
委員長	目標値や前年に対しての評価については矢印で示す方法もあるため、判定方法を検討していただきたい。
委員	川根高校は県立高校として定員があり、定員割れを起こしている。

委員	<p>こうなると1番の目的は、川根高校の存続維持だと思っている。</p> <p>存続維持する最低ラインについては、新入生、在校生を含めた総人数がこのラインを切ると学校として分校になるとか、廃校に近くなるというようところが1番危機感のある数字だと思う。</p> <p>連携型中高一貫教育を実施していることを含めてシステムの特例がある。県は川根高校を特別に見てくれている。41人という数字は、1クラス40人学級をとっているので、1学年2学級の維持のこと。これを現在は特例として3学級で運用している。</p> <p>しかし、2年連続で41人を下回り、これが続くと、次は分校化されてしまう。また、ある一定数の入学者がいないと、今度は佐久間高校のように引上げになる。学校がその危機の中でこの41人という数字を最低ラインということで目標として挙げられている経緯がある。</p> <p>分校になると、教員数が減って、教育の質は低下する。</p> <p>現在は地元の子どもの数が減り、全体の生徒数が減る中で、どうしていくか対策を考えないといけない。その他には、他県の中山間地の学校の例を出して、40人学級について見直しの検討をしていくことが必要。東北地方では35人学級30人学級が1学級の規模であり、その実態に合わせて規模を作ってほしいということを県に強く要望していくことが必要。</p>
委員	<p>41人という意味が理解できた。</p>
事務局	<p>来年度の募集人員は40人と聞いている。</p>
委員	<p>不確定だが3年連続で41人を下回ると、そういう流れになるのかもしれない。</p> <p>昨年までは80人のため、40人に落としてきたということは、特別な意味があるかもしれない。</p>
委員	<p>この41人とか40人という数字がデッドラインであるならば、これは70%がA判定ではなく、A判定は100%でないとおかしいのではないか。</p>
事務局	<p>A B C判定については今後、判定の方法も含めて示し方を検討する。</p>
委員長	<p>A B C判定は、あまり重要ではない。総合判定はなくても良いのかもしれない。</p>
委員	<p>来年度から始まる義務教育学校について、どういう教育を進めているか、11月に行われた保護者説明会のイメージ図を用意した。総合計画の中で、学校が楽しいと思う生徒の結果について、学校は素直に受け取り、子どもたち自身が</p>

楽しい学校を作っていく新しい学校のスタイルで、主体性にこだわった学校づくり、新しい学校づくりを進めている。

小・中学生合わせ60人という小さな学校であり、これまでの学校の当たり前を見直し子どもを育てる、学校から子どもが育つ、そういう学校へと転換し、子どもたちが自分の責任で色々なことを選択して、自分たちの責任で作っていく学校づくりを目指していく。

三ツ星小については、200人の規模の義務教育学校となり、光の森学園とは少し違う特色を持たせて学校づくりを進めている。

また、里山留学制度についても、今年は1月の予定を入れて3件と、来てくれた親子はすごく良い感触で帰られて、実際にアクションも起こしてくれていることは担当課のほうから聞いている。今年度、私どもの学校36人中、3人はこの4月からうちの町に来ている。

そういう形で少しずつでも、特色ある学校で教育を受けさせたいという思いで、頑張っている。

それからICTについて86%とあるが、すごい高い数値だと感じた。実は国の調査でも100%にならない。教職員なので、実際にICTの指導に携わらない教員もいて、100%という目標が、本当に良いのかは分からない。吉田町は既にスクールDXで文科省と繋がり、随分進んでいる。ICTについては、子どもたちの将来に向かって宝物になることは間違いないと、携わる中で実感している。

委員

銀行に勤務しているが、最近空き家の相続人について所在等の問い合わせや相談が増えている。行政で調査することは可能か？

事務局

関係各課と連携し、協議していく必要があると感じている。

委員

区長会でも空き家の問題は上がっている。

委員長

南伊勢の事例を参考にしてみるのも良いかもしれない。

委員

C判定の項目について、アプローチの方法を変えてみたらどうか？

事務局

コロナ禍により、セミナー等の開催が不可能だったことが大きな要因。今年度は10月に実施済みで、今後も地域とのつながりは継続していく。

委員

地域とのつながりは、地域を巻き込み何かにチャレンジするといった、学校と地域が繋がりに似ているように感じる。

委員長

他にご意見等はございますか。委員の方でご質問やご意見がありましたら事

事務局	<p>事務局まで連絡いただければと思います。それでは、特にないようですので事務局にお返しします。</p> <p>本日はありがとうございました。次回の会議は3月を予定しております。3月の主な議題は総合計画に基づいて来年度実施する事業についてです。総合計画に沿って来年度こういう事業を計画していますということで、皆様の検証の参考にしていただきたいと思います。</p> <p>本日はお疲れ様でした。</p>
-----	--

上記に相違ないことを確認する。

委員長 小泉 祐一郎